

年頭のごあいさつ

New Year's greetings



自然首都・只見にふさわしい町づくり

只見町長 目黒 吉久

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましてはつつがなく輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、ギリシャの財政破綻からドル安、円高の流れとなり追加経済政策も効果が上がり、今もって国民生活は厳しい状況にあります。加えて参議院選における民主党の大敗を機に国政は混迷を呈し、外交、防衛領土問題も浮上し社会不安が増大した年でありました。

気候の変動も厳しい一年で、本町においても町民生活はもとより農業や野生動物にも大きな影響を与えました。

農作物においては、品質低下と収量減少を招き、米価下落も重なり稲作農家にとっては大きな打撃となりましたが、トマト・花卉においては高単価に支えられ生産額の向上につながったことは幸いでした。

地元誘致企業におかれては、今なお円高による厳しい環境の

中にありますが、通常の生産体制に戻りつつあることは本当にうれしいことでもあります。

さてグローバル化の進む中、只見町の明るい未来への展望は自然、歴史、文化、暮らし、産業などの地域特性を活かしたローカル色を打ち出し地域としての価値を築き上げてゆくことが大切だと考えます。

そのためには集落の高齢化、人口減少をふまえて地域の担い手、新規就農者の確保など、定住促進対策とみんなの知恵が結集できる場づくりや町外の多様な人たちの参加、協力が得られるネットワーク作りが大切であり、自然首都・只見にふさわしい農・商・工・観光の連鎖を引き起こす仕組み作りと地域ブランドの確立が必要であります。「ただみブナと川のミュージアム」は予想以上にたくさんの方に来館いただきました。国内最大級のブナの原生林を持つ只見からの情報発信基地として機能充実を図ってまいります。観

光まちづくり協会も昨年より一般社団法人となり旅行業務ができるようになりました。

農家民泊の取り組みも着実に進み評価を得ております。本町の豊かな自然を活かした地域密着型の人・観光交流施設・資源の連携を深めさらなる集客力の向上を図ってまいります。

次に保健、医療、福祉の充実ですが、引き続き関係機関の連携による地域包括支援システムの構築を推進してまいります。今年度からは地域リハビリの活動にも期待しながら、常勤医師三人体制の堅持と少子化、子育て支援として中学校卒業までの医療費助成や、若者たちの出会いの場づくりにも力を入れてまいります。

さらには自然首都・只見にふさわしい人づくり教育を推進し、本町の豊かな自然を活かしながら、逞しい精神と身体を備え、将来における自己実現を達成できる力を持った只見っ子の育成と、「地域人材育成事業」

や「只見学推進事業」を通して子供達から大人まで地域力と文化力の向上につなげてゆきたいと考えております。

昨年、役場庁舎、只見総合開発センター及び旧只見中学校三施設の活用について基本的な方向性の答申を頂きました。今年度は将来に向けた地域整備計画になるよう、住民の皆さんの意見を頂きながら進めてゆくこととなります。

町長に就任して二年が過ぎました。時の速さと成せることの少なさに、我が身を引き締め町民の皆様から負託された事業の実現のために全力を傾注して参る所存でありますので町民各位のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに平成二十三年が皆様にとりまして素晴らしい一年になりますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



地方の時代を目指して

只見町議会議長 五十嵐 拓

新年明けましておめでとうございます。只見町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年の国内外に目を向けますとギリシャの財政危機は世界的な株安、ユーロ・米ドルの下落に伴い円高が進む状況となり、産業の空洞化による国内雇用には大きな影響を与えております。

しかし、依然として原油の高騰は続き、世界の政治・経済は今なお混沌としております。

自然災害も頻発しており中部の地震は甚大な被害となりましたが、鉱山落盤事故では全員の無事救出報道に世界の人々と共に安堵いたしました。

我が国においては、「地域主権」の確立を「一丁目一番地」とする鳩山内閣が誕生から一年を待たずして、菅政権に交替す

ることとなり、さらに、7月参議院選挙では民主党に厳しい結果となり政治のねじれ現象が再びおきることとなりました。

さて、春からの気温不安定に続き、過去最高となった全国的な猛暑は、本町においても町民生活に多くの影響を与えることになりました。特に振興作物の稲作の品質低下を招き、米価の下落と併せて稲作農家には厳しい現状となりました。世界情勢にあるTPP問題にも対応のできる足腰の強い重点施策が求められています。

町政においては、昨年、福島県から副町長を迎え、地域計画や組織改革並びに住民協働によるまちづくりの推進が図られています。また、近隣五町村による「奥会津振興センター」の発足は、流域の活性化に大きな期待が寄せられています。

町は、住民が安心して生活ができる環境整備の一つとして、医療と福祉の里づくりに取り組ま

みを強めてきました。課題は少なくありませんが、確実に安定と充実が図られていると考えております。

農家民泊事業が二年目に入り千葉・東京など首都圏から児童生徒が訪れ体験農業と交流が進められています。また、新規参入業者の高木ご夫妻が第51回福島県農業賞新規就農部門で受賞されました。今後、さらに参入しやすい環境整備が重要になります。

11月、八十里越え九号トンネルが貫通し、全線開通に一步一歩近づいており、只見高校生の自転車による全線踏破や民間団体・企業・行政が協力連携し、早期開通に向けて要望活動を展開しております。

さて、本町も長引く景気低迷と少子高齢化社会など多くの課題に直面しておりますが、議会としての責任と役割を深く認識し、健康で安心して生活できる町づくりに取り組んで参ります。

す。

昨年の12月定例会で、「議会改革推進特別委員会」を設置いたしました。「通年議会の実施」「議会基本条例の制定」等、地方の時代を目指して開かれた議会の推進に努めてまいります。町民皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとりまして、より実り多き年となりますことを祈念いたします。新年のご挨拶といたします。

